

# シヨクダイオオコンニャクの 状況報告について

高井敦雄・荒木大蔵

本園が保有するシヨクダイオオコンニャク (*Amorphophallus titanum*) が全て腐敗したので、その状況について記録する。

シヨクダイオオコンニャクは世界最大の花を咲かせる集客効果の極めて高い植物であることから、各地の植物園において導入、栽培されている。本園も、過去何度か導入していたが絶えていたので、改めて2012年7月に3株導入した。

基本的な水管理は、生育期は表土が乾いてから、冬期は控えめ、休眠期は断水という考え方で行った。施肥は、生育期は月1回、冬期は生育状況を見ながら無施用あるいは置肥の量を調整し施用、液肥は生育状況により2週間に1～2回程度周年行った。

用土はコストを考慮し、赤玉土と当園でほぼ毎年作成している腐葉土を1:1で混合したものを使用した。なお、腐葉土は毎回ビニール袋に入れて春から秋にかけて土壌消毒を行い使用した。

導入後、上記の管理を基本として3～4作栽培を行ってきた(表)。そして、今作は予想されていた2018年晩秋から2019年春にかけて6株とも全て葉が黄変、倒伏するに至った。地上部を除去したものから順次掘り上げを行ったが、いずれも程度の差はあれ、全て腐敗していた(写真)。

腐敗枯死した3株(個体番号1、5、6)は、下記の経過を辿り、枯死した。

- ① 井水を流しながら腐敗部分を手で除去、殺菌液に浸漬後、粉衣、陰干し。
- ② 処置後、塊茎から水分が滲出し、腐敗進行。
- ③ 殺菌剤を変更して①と同様の処置。
- ④ ②と同様の経過を辿ったため、井水にて腐敗部分の除去、3度目の殺菌液浸漬後、日陰で風乾。
- ⑤ カビが発生し、腐敗が止まらないため、井水で4度目の腐敗部分の除去、殺菌液浸漬後、天日干し。塊茎にひび割れが発生し、曇天雨天時にはカビが発生、腐敗進行。
- ⑥ 上水で腐敗部分の除去、ドライヤーで強制

乾燥後、殺菌剤の塗布。

- ⑦ 腐敗進行。
- ⑧ 枯死。

掘り上げ時の1つ1つの腐敗は小面積でも、全身に及んでおり、かつ表面は小さいが、内部に大きく窪んで腐敗する例が多く、腐敗部を完全に取り除くのは困難だった。そのため、腐敗部分を完全に除去できたとは断言できない。

腐敗の原因として、かん水過多、肥料過多、用土の消毒が不十分、センチュウ感染が可能性として考えられた。個体番号1、2、6やゾウコンニャクはかん水、施肥量を過去作と変えていないが全て腐敗したので、かん水や施肥の可能性は低い。過去作と腐敗した今作での変更点は、用土の腐葉土を市販のバーク堆肥に変更、土壌消毒を厳寒期の無加温ビニールハウスで実施、液肥の種類の変更なので、残る原因のうち、用土の消毒が不十分、センチュウ感染が原因となった可能性が高いが、正確な原因は特定できていない。複合的な要因も十分あると考えている。

まだ枯死していない3株のうち、2株は枯死する可能性が極めて高い(個体番号2、3)。残る1株(個体番号4)は何とか小康状態を保っているが、かん水を開始すると腐敗が進む可能性がある。春に出芽するのを期待したい。



写真 個体番号3の腐敗状況（鉢直径157cm、塊茎直径72cm）

表 導入以降の生育状況

個体番号	導入日	形態	1作目掘上日	重量	2作目掘上日	重量	3作目掘上日	重量	4作目掘上日	重量	腐敗した3~5作目（※）
1	2012.7.17	5号鉢	13.6.9	0.3kg	14.9.11	2.5kg	16.6.14	3.3kg	17.8.18	15kg	腐敗枯死（56kg）
2					同上（分球）	1.3kg	16.4.20	2.2kg	17.8.15	14kg	腐敗（43kg）
3	2012.7.17	5号鉢	14.9.14	1.7kg	16.5.14	8kg以上	17.8.6	30kg			腐敗（65kg以上）
4			同上（分球）	1.6kg	16.6.21	10.5kg	17.8.18	30kg			腐敗（65kg）
5	2012.7.17	5号鉢	14.7.21	2.2kg	16.3.19	10.5kg	17.11.29	53kg			腐敗枯死（38kg）
6	2013.12.7	3号ポット	16.4.11	0.7kg	17.夏頃	3kg					腐敗枯死（3kg）

※ 重量は腐敗部分除去後の重量